



# むぎの郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから  
生み出され、住民の手によって育てられる

April 2019

ソーシャル ファーム ピネル/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター つれもて/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース/障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/叶夢向/創cafe/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

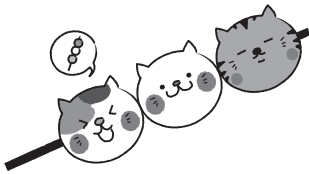
揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637  
〒640-8301 和歌山市岩橋643 <http://www.muginosato.jp>



麦の郷紀の川生活支援センターお花見 4.2 (火)



くろしお作業所お花見 4.3 (水)



はぐるま共同作業所和の社お花見 3.29 (金)



## 私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々とつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。





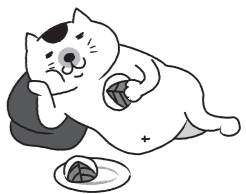
# 「みんなの願いを叶えるため…。」

2019年2月9日、第17回和歌山県作業所問題研究交流集会  
問題研究交流集会在、和歌山市北コミュニティセンターで開催されました。県下から約200名の参加者が集まりました。今年のテーマは「明日への架け橋〜障害者権利条約とともに〜」でした。

午前中は「障害者権利条約、パラレルレポートの焦点と課題」を日本障害者協議会副代表であり、全国障害者問題研究会副委員長である蘭部英雄氏に講演していただきました。北欧諸国の様子を日本の現状と比較しながら、わかりやすい暮らしの場の事例をもとに話していただきました。あまりの違いに北欧でできて日本ではなぜ出来ないのか？平和な暮らしで「ふつうに生きたい」と願ったり、誰もが等しく心豊かに生きられる社会を作っていくべきだと思います。また、



障害者権利条約を批准した国については政府として締約報告義務が課され、さらに民間の報告書としてパラレルレポートを審査会に出すことが出来、両方をしっかりと見てもらい、日本の状態に対して、国連から勧告を受けることを学びました。



午後は10種類の分科会に分かれて議論を深めました。私が参加した第8分科会『「生活介護」のあり方』では、「ふたば作業所の生活介護事業について」「65歳を超えたい働きたいんだ〜みんなに届けたい僕の想い〜」の2本のレポート発表の後、話を深めました。「働くこと」「生きがい」「65歳問題」など様々なテーマで話し合いが出来たうえで、他の作業所の様子も知ることが出来、大変参考になりました。特に65歳問題では、市町村によって対応や問題も異なり各市町村の様子の報告が主になり、議論するのが難しかったように思います。しかし、逆にそれでいいのだろつかという疑問にぶつかりました。障害を持たれている方が、住んでいる場所が違うことで保証されることが変わってくるのはおかしいのではないかと感じました。また、資源も異なり、選択できない地域もあることも地方ならではの悩みに思えました。共生型事業所という制度の下によって誕生させようという動きが65歳問題の矛盾点をよりクローズアップさせたように思います。選択の一つとしての、性質が違う障害分野と介護分野

することを共感しました。

所連絡会)の上映活動の一環として、きょうされん40周年記念映画『夜明け前』(呉秀三と無名の精神障害者の100年)を鑑賞しました。今から100年前に精神科医の呉先生が、自宅監置、や、座敷牢、の実態を調査研究し、改革に奮闘した実践を紹介したドキュメンタリー映画です。呉先生は当時を、精神病を受けた不幸だけでなく、この国に生まれた不幸を重ねている」と記していますが、現代はいかがでしょうか？と問いかける内容となっています。この映画は、3月に第60回科学技術映画祭において文部科学大臣賞を受賞しています。

研修会後半は、『笑顔と元気』麦の郷プラン2018〜2022という私たち法人の理念を含めた長期計画を深めました。プランの目玉とは？について麦の郷プラン策定委員会の野中さんが今回のプラン策定の経緯と、法人の理念を不断にめざし私たちの実践をより高めるには「日本国憲法」や「人間としてたくましく、ゆたかな人生を築く」ことを追求する大切さについて話してくれました。また、子ども、労働、生活を支援する分野からそれぞれ代表で、我が事業所プラン」として5年先の「夢」を語ってもらい、制度の貧困さはあるものの多くの方々の笑顔と元気のために前進



参加者の感想よりご紹介いたします。「映画『ふるさとをください』からもう10年経ったんだなあ。早いなあというのが最初に感じた感想です。先日保護者が企画する学習会で『どんぐりの家』も拝見した所で今回このような機会をいただけてありがたいなあと思いました。映画の内容については知らないことが多くありましたが、最後のインタビューであっしやっていた「精神障害だけでなく他の障害やあらゆるマイノリティの方に通じる」ということを観ながら感じていました。知的障害児のことを取り上げた『夜明け前の子どもたち』という映画がありますが、そこでもヒトで縛られていた子どもにヒトをとるという実践がありました。今回の映画で取り上げられた実践の方が100年前というところで先ですが、この時代にも先進的な実践、とりくみがあり、その歴史を学びながら自分たちがやっていることを省察していくことが大切なのだなあと改めて感じました。このことは映画の後にあった麦の郷元気プランのお話にも通じていると思います。子どもと大人などそれぞれの専門性や事業内容は異なりますが、共通する大事な視点を確認できる機会になりました。」

研修委員会としては、法人規模は大きくなりましたが、だからこそ、法人の理念を実践に活かせるよう、職員の「気づき」を高められる研修を今後も企画し実行していきたいと考えています。

(教育研修委員会 江上 直子 鈴木 栄作)

の行き来はいい点もありますが、まだまだ矛盾点を抱えた状態の為、現実的には使いづらい事業であることも問題のように思います。「今まで通りの生活を送りたい。」そんな些細な願いを叶えられる制度を作ってもらえるように、国や県や市町村に働きかけ続けなければならぬと思います。また、みんなの願いを形に変えることが出来るように、わされん(和歌山県共同作業所連絡会)をはじめとしたみんなの力を結集させなければならぬと感じました。

事業所を利用している仲間や家族の願いがあったからこそ、いろんな気付きを大切にしながら取り組みをしてきました。まずはやってみようの精神でやりたいことに挑戦し、「私たちのことを抜きにして、私たちのことを決めないで」とあるように、みんなでいろんなことを考えて決めていきたいと思いました。

(くろしお作業所 山本 直子)

## 法人職員研修会を終えて

2月23日(土)法人職員研修会は99名の参加者でした。

受付をしながらこの所属が知らない方も多く改めて法人の規模が大きくなっているのだなあと思いました。

研修会前半は、わされん(和歌山県共同作業

## \*むぎ・わくわくレポート\*

青年学級には、入所施設に入っているためヘルパー(移動・介助)を利用できない仲間が居ます。これでは年に2〜3回青年学級が出演するイベントに参加出来なくなるので、そのイベント実行委員会でもボランティアに支援を頼もうと提案してみました。

しかしボランティアの仕事は「売り子」「設営」「案内」等しかなく、「車イスの支援」はあまりにも負担が大きいと、会議でなかなか話が進みませんでした。

その中で、もう一度「福祉とはなんなのか?」「このイベントの意義」を改めて皆さんに考えてもらい、やっと「車イスの支援」のボランティアを依頼することが出来ました! たまたま2名の方が「介護福祉士」と名乗り出てくれたので、知識も経験もある方からの支援に仲間も大満足! 始まりから終わりまでしっかりとイベントを楽しんでいました。

言わないと伝わらない、提案して皆さんで考えていかないと、埋もれていく問題が増えていきます。それによって誰かが悲しむよりは、今一度、改めていろんな事柄を一緒に考えていけたらと思います。

(事務所 東 沙稚子)



### 第14回 全国若者・ひきこもり

### 協同実践交流会 in あいち

2月9日10日  
に「全国若者・ひきこもり協同実践交流会」が名古屋で開催されました。

スタッフ4名  
メンバー5名が参加し、初めて大会に参加する人が半数以上でした。



1日目は「知識と学び」、2日目は「実践と交流」をテーマに全体シンポジウムや21ものテーマ別分科会などが行われました。

メンバーは「はたらく」「や」「居場所」「精神障害」などそれぞれ興味のある分科会に参加しました。全国から集まった報告者自身の経験、実践や想いについて語られ、参加者との意見交換など2日間を通して学びのつまった充実した大会となりました。

今回初めて物品販売ブースでの出店も有り、創カフェオリジナルのみかん甘酒は大好評！P

研究する橋本明氏による「私宅監置と日本の精神医療史」展 シリチャール&ギャラリートークが開催された。

「夜明け前」は、2018年に製作された。百年前、当時の精神病患者が座敷牢に閉じ込められておかれる「私宅監置」の実態を調査した精神科医、呉秀三の足跡を描いたドキュメンタリー映画である。呉秀三は若くしてオーストリア、ドイツに留学、先進的な医療を学び、当時は収容所としての側面が強かった精神病院で、患者の拘束を廃し、治療の場としての病院づくりと、精神病患者の解放に努めた。映画は、呉が論文の中に残した「我邦何十万ノ精神病患者八実ニ此病ヲ受ケタルノ不幸ノ外ニ、此邦ニ生レタルノ不幸ヲ重アルモノト云フベシ」という言葉から始まり、実際の監置室の写真や見取り図、法令の文書など、貴重な資料を目の当たりにできる。

精神病患者の私宅監置は、明治時代の初期、各府県によって瘋癲人(精神病患者)を取り締まる規則が相次いで作られ、自宅での監置も規定されていた。その後不法な監置を取り締まるために、1900年に精神病患者監護法が制定され、各府県ばらばらだった監置の規定が統一される。「私宅監置」という言葉も国の法律の中で初めて登場する。この法律は、1950年の精神衛生法の制定とともに廃止されるまで、半世紀にわたって日本という近代国家の中で維持されていた。

「私宅監置と日本の精神医療史」展では、私宅監置が行われていた歴史の流れを解説。監置室として使われていた小屋や、床に横たわる精

o z k k  
雑貨や和の杜のポップコーンなどの商品もあわせて販売し、創や麦の郷を知ってもらえる機会になりました。また、出店ブースをお



くことで大会中にメンバーが一息休みたい時に安心して居られる拠点づくりという大きな意味もありました。

夜は夕食を食べながらそれぞれが参加した分科会の報告や感想を交流したり、大阪の支援団体の人たちと合流して近況を語り合ったりとみんな楽しんで時間を過ごしていました。

実践者の報告で共通していると感じたことは、「出会いとつながり、居場所、はたらく場、地域(社会)づくり」が実践における理念や基盤となっていることです。そして、私たちが創の実践はまさにそれを創りだしていることを改めて実感しました。そして、やはり人と人をつなぐには想いを伝えることが、対話はとても大切です。様々な人の、様々な視点や声として発せられることで、多様性の広がりを生み、多様な生き方を認め合える社会を創っていくのだと思います。

精神病患者の姿など、監置の実例を捉えた写真二十数点が、橋本氏による解説とともに展示された。また、沖縄に現存する旧監置施設の写真も見る事ができる。これは現在、保存のための働きかけが行われている。

精神病患者の拘束、監置は今なお過去の話ではない。彼らが置かれてきた現実を、目をそらすずに正視したい。(おぎぼろ 玉置 利紗)

## こじか園生活発表会

2月9日(土)に生活発表会をしました。5歳児の3名がインフルエンザのため欠席で、全員そろっての生活発表会ではなく残念でした。

生活発表会は『行事のために新しいものを練習してみせる』というのではなく、子どもたちの好きなおはなしを考え、日々の遊びの中で、子どもたち自身が楽しめるものを探り、おはなし遊びとしてまとめ、集団でのあそびを通して、今まで培ってきた力を確認し合う場と考えて行っています。とまとグループ(2、3歳児)は『3びきのやぎのからがらどん』、たまごやきグループ(4歳児)は『あおきなかぶ』、おにぎりグループ(5歳児)は『ブレーメンのおんがくたい』のおはなし遊びをしました。5歳児は、他にも各グループのおはなしをつないでいく出番をしたり、『うたえこのひら』

以下メンバーの感想を紹介します。

「今回色々な人の話を聞いて、僕は自分らしくいられる場所は自分をそのまま伝えられる誰かが居る場所、そんな人に会いにいっているのが居場所なのだと思います。」(Tさん)

「テーマ別分科会では「わたしの働く」に参加しました。その中で「何の為に働くか」がテーマになったように感じました。明確な理由を持って働くことで、「生きる」が「生きる」になるのではないかと思いました。」(Yさん)

「この2日間は普段では関心はあってもなかなか聞いたり話をしたりすることのない事が取り上げられていて貴重な時間でした。私自身、社会に対して生きづらさを感じることも多いです。仕事に行ってはすぐに辞めるを何回もくりかえして、自分は社会に適応できない人間なのではないかと痛感した事、今もその気持ちにさいなまれる時もあります。今は一人ではないので希望を持って生きていけると思っています。」(Sさん)

(ハートフルハウス創 石橋 由季子)

### わされん職員育成プロジェクト公開講座 「夜明け前」と「私宅監置と日本の精神医療史」展

3月23日、田辺B&Uにて、映画「夜明け前」の上映会と、愛知県立大学で精神医療史を

『せかいじゅうのこともたちが』を楽器演奏とうたを歌いました。当日は、たくさん見に来てくださり、緊張している様子の子どもたち、お父さん、お母さんを見て泣いてしまう子どももいましたが、生活発表会までたっぷりあそび、遊びごんだことで、子どもたちは、おはなしの雰囲気や役になりきり楽しんでいました。見に来てくださった方々も温かい雰囲気の中、子どもたちを見守ってくださっていました。そして、2月22日(金)には、5歳児が全員揃い帰りのあつまりで、『ブレーメンのおんがくたい』のおはなしをしました。発表会が終わってからも、少し間が空いていましたが、たっぷり遊びこんでいたことで、子どもたちもおはなし遊びを楽しんで役になり演じていて、発表会が終わって、おしまい、というのではなく、その後も他のグループのおはなしで遊んだり、途切れてしまわないことが大切だと感じました。

こじか園  
滝本 容子





# 成人を祝う会と 10年戦士表彰を行いました

去る3月15日、和の杜で新たに成人を迎えられた方1名と、新たに10年戦士になった4名を祝う会が開かれました。成人を迎えたメンバーからは、「大人になったので、自分の行動に責任を持ってこれから頑張ります」と力強い言葉を頂きました。引き続き10年戦士表彰では、和の杜で勤続10年を迎えた「10年戦士」4名に表彰状と10年戦士白衣を贈呈しました。10年戦士白衣には特別なワッペンが刺繍されています。その白衣に袖を通した人は周りのメンバーから一目置かれる存在であること、また外から見学に来た人にも注目されているから今後も頑張ってくださいと、施設長から激励されていました。その後は宴のスタートです。豪華なお弁当に、思い思いの飲み物やお菓子を食へ、デザートにホットケーキを自ら焼いて何枚も食べる人も…。

和の杜は働く場ですからレクリエーション自



体が少ないのですが、中でもこの表彰式は特別な存在です。祝われる方は当然ですが、祝う側も「10年戦士はやっぱりすごいんだな」とその位置を目指してもらいたいのと、また既に10年を迎えられている方には、次は「20年戦士」を目指して頑張ってもらいたい。そんな事を思ってもらえる1日になれば、と思っています。この日を迎えられた5名の皆さん、おめでとうございます！

今後和の杜にあなたの力を貸してくださいね。(はぐるま共同作業 所和の杜 大末 翔平)



## 第23回西和佐地区社会福祉協議会・ 麦の郷春祭り開催

4月6日、西和佐小学校において「西和佐地区社会福祉協議会・麦の郷春祭り」が開催されました。暖かく天気の良い日となり、西和佐小学校の体育館には総勢300名の西和佐地域の方々、麦の郷の仲間



が集まりました。冒頭、主催者挨拶において西和佐地区社会福祉協議会 山田恒次会長よりご来賓の方々へ公務多忙の中、お集まりいただいたお礼と合わせて、この春祭りの趣旨や意義を説明してくれました。また多くの来賓の方々はこの祭りが23回も続けておこなわれていることに驚きと敬意を表してお祝いのメッセージをいただきました。



交流会では、今回初となる西和佐地区民生委員のみなさまによるフラダンスを披露してくださいました。素敵な踊りに観客のみなさんも心を奪われていました。次は打って変わっておびの郷みんなでおどり隊によるよさこい踊りがはじまり、最後のうらじゃ踊りでは会場からも踊りの参加者を募って楽しく踊りました。またボズック楽団のちんどんパフォーマンスは非常に楽しく、祭りを大いに盛り上げてくれました。最後のビンゴゲームでは、みんな必死となってでくると数字に一喜一憂しながら景品をもらいにでてる顔は本当にうれしそう



2019年1月14日(月)から1月25日(金)まで「ソーシャルファームピネル展示WEEK」がピネルの2階休憩室で開催されました。「自分の趣味を見せあつ」をキャッチコピーにピネルに所属している人が作成した展示物を展示する、というもの。絵、書道、小説、写真、俳句、ポエム、工作物、魚拓など、趣味を展示化したものなら何でもあり。

## ソーシャルファーム ピネル展示WEEK



今回も無事にこの祭りが成功できたのは、西和佐地区社会福祉協議会のみなさん、また西和佐支所、西和佐小学校といった地域のみなさんとの協力があったことと感謝しています。8月1日にはまた夏祭りが控えております。今回の春祭り以上に盛り上げていきたいと思っておりますので、ご参加のほどよろしくお願います。

(麦の郷居住福祉事業所 武田 賢二)

出展者には、書道家、写真家、似顔絵イラストレーター、小説家、油絵画家、登山家、ライターと多種多様に参加。登山家は登山中にしか撮れない写真、ライターはバイクでツーリングした際に撮った写真を展示。うまくルールを利用したな一と感心。出展された展示物には素直さ、ユニークな一面、器用さなど出展者それぞれの豊かな個性があふれ出ていました。「この人、こんな趣味があったのか」と新たな発見もあり、展示をすることからコミュニケーションが生まれたこともよかったです。

これは出展者の一人であった私の一感想ですが、この「ソーシャルファームピネル展示WEEK」の良さは展示期間のみであったわけではないように思います。作品募集の告知は去年からしていました。私は募集期限までに「何を展示しようかな」と毎日考えてながらワクワクしていました。「各々がピネルに展示したいものを展示したいときに展示すること」ならこんなワクワクは生まれなかったかもしれません。期限があることによつて、一つの目標になったことが私にワクワクを与えてくれたきっかけになりました。

(ソーシャルファームピネル 勝山 陽太)



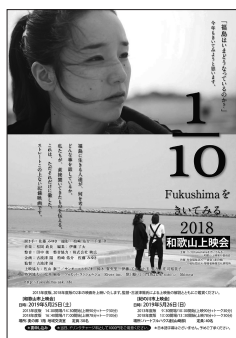


## 「1/10Fukushimaをきいてみる」和歌山上映会のお知らせ

「1/10Fukushimaをきいてみる」という映画は福島「今」を映し出したドキュメンタリー映画です。一般上映されていない映画でなんと和歌山での上映会は初！になります。私が心を大きく揺さぶられた「2013年度版」、そして最新の福島を映し出した「2018年度版」の2つを上映します！映画監督のトークもあるので是非お越しください！

当上映会は申し込みが必要です。FAX、メールでお申し込みの際は①お名前②電話番号③参加する日④ご覧になる映画(2013年度、2018年度、両方も可)、を記載の上お送りください！

(ソーシャルファームピネル 勝山 陽太)



### ●お申し込み、お問い合わせ先

TEL: 073-474-2466 FAX: 073-474-4637  
MAIL: fukushima.ask.wakayama@gmail.com

### ●[和歌山市]

日時: 2019年5月25日(土)

2013年度版 14:00開場 / 14:30開始(上映90分+トーク30分)

2018年度版 16:40開場 / 17:00開始(上映78分+トーク30分)

場所: 麦の郷 地域交流室

定員: 50名

※日本語字幕はございません。ご了承ください。

※駐車場はございません。公共交通機関を使ってお越しください。

※当日、ドリンクチャージ料として1000円をご用意ください。

### ●[紀の川市]

日時: 2019年5月26日(日)

2013年度版 9:30開場 / 10:00開始(上映90分+トーク30分)

2018年度版 13:00開場 / 13:30開始(上映78分+トーク30分)

場所: ハートフルハウス創(山崎邸)

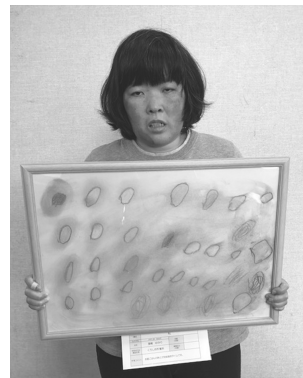
定員: 40名

## くろしお和歌山県障害者作品展優秀賞

### 優秀作品に選ばれました！

くろしお作業所に通所されている萱嶋ゆかりさんの描いた作品が、第1回和歌山県障害者作品展にて優秀作品に選ばれました。優秀作品は和歌山県立文化会館にて展示されました。素敵な絵を描くゆかりさん、これからもどんどん素敵な絵を描いてくれることでしょうか！ゆかりさんが描いた絵は缶バッジにして商品化し、販売もしています。(くろしお作業所 川崎 愛香)

缶バッジの問い合わせ先(073-462-2471くろしお作業所 担当 道幸・岡本)



まきのひと



和歌山生活支援センター  
上田 路子

和歌山生活支援センターの上田といいます。

支援センターは、皆が自由に入出入りして過ごすことのできる居場所と障害福祉の制度や生活面のことに関しての相談・支援等をしているところです。毎日いろいろな人との関わりがあります。多くの出会いの中で、いろんな想いや考え方があり、いろんな形の生活があることを日々実感しています。驚きや憤りを感じることもあれば、悲しいこと、残念なこともあり、そして楽しさや喜びを分かち合えることもたくさんあります。仕事をする中で、できてないあと思うことや反省することはたくさんありますが、楽観的な性格がそれを上回っているらしく、周りの人に助けをもらいながら楽しく日々を送っています。やっぱり大切なのは人と人との関係。いい時もうまくいかない時も、長所も短所も認め合い、助け合い、支えあいながら、皆が笑って生き活きと生活していけたらいいなと思っています。